

発刊にあたって

学習指導要領（小中学校は平成 29 年 3 月告示、高等学校、特別支援学校は平成 30 年 3 月告示）では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、各学校においては、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことが求められています。

本県においては、令和 2 年 3 月に策定された「しまね教育魅力化ビジョン」に基づき、教育施策を推進してまいりました。令和 3 年 2 月に策定された「しまね特別支援教育魅力化ビジョン」、令和 7 年 3 月に策定された「しまね教育振興ビジョン」に基づき、引き続き学校・家庭・地域・行政が連携し、一体となって本県の教育を進めております。

島根県教育センターにおいては、「学び続ける教職員の育成と校内 OJT を支援する教育センター」をグランドデザインに掲げ、教育課題に対応した研修の実施、生徒指導や特別支援教育に関する課題への支援、学校訪問指導・出前講座・要請訪問の実施など、教育庁各課室や教育事務所と連携を図りながら業務を行っています。

さらに、学校教育活動の活性化に役立ち、今日的な教育課題の解決の一助となることを目指し、調査・研究に取り組んでいます。この研究紀要には、令和 6 年度調査・研究から 7 本の研究成果を収録しています。これらの内容が、各校の教育実践の参考となり、児童生徒や地域の実態に応じた学校づくりや学級づくり、教職員一人一人の資質能力の向上を目指す研修や研究活動に活用され、新しい時代に求められている学校教育の改善・充実につながることを切に願っています。

最後に、研究を進めるにあたり、ご支援・ご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

令和 7 年 3 月

島根県教育センター 所長
島根県教育センター浜田教育センター長
大場 尚樹

【研究紀要】

| | |
|--|-------------------------------------|
| R6-1 島根の子どもの資質・能力を育む授業づくり ～授業づくりのポイントを踏まえた単元構想のあり方～ (2年次 / 3年) | 島根県教育センター 企画・研修スタッフ 共同研究 |
| R6-2 教師の継続的な ICT 活用を促す研修プログラムの開発と検証 ～生徒のクラウド活用に向けた教師の継続的な ICT 活用に結び つけるアプローチ～ (1年次 / 1年) | 島根県教育センター 研究・情報スタッフ 共同研究 |
| R6-3 通常の学級における子どもたち一人一人の 教育的ニーズに応えるために ～生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させて～ (2年次 / 2年) | 島根県教育センター 教育相談スタッフ 共同研究 |
| R6-4 学校の自走をアシストⅡ！校内研究を支援するための方策 (1年次 / 1年) | 島根県教育センター浜田教育センター 研究・研修スタッフ 共同研究 |
| R6-5 学校現場の「学級づくり」を支える教育センターの取組 ～「スリンプル・プログラム」のスムーズな導入に向けて～ (2年次 / 2年) | 島根県教育センター浜田教育センター 教育相談スタッフ 共同研究 |
| R6-6 教科指導リーダーを中核とした中学校理科教育の推進の検討 ～各地域における生徒が主体的に探究する学習の実現をめざし て～ | 島根県教育センター 企画・研修スタッフ 園山 裕之 |
| R6-7 高等学校理科で育成をめざす資質・能力を生徒に育むための「主 体的に学習に取り組む態度」の評価について ～指導と評価の一体化をめざして～ | 島根県教育センター 研究・情報スタッフ 福田 秀孝 |